



「国産ホップを守る 三者懇談会」レポート

2009/11/27 東京国際フォーラム G604



本年度は会議の名称を変更しました、自由な意見の発言を抑える意図ではなく幅広く課題又は在るべき未来像を提起して頂きたい、その観点から堅苦しさをなくしたいと考えタイトルを変えました、活発な発言をお願いして開会しました。

開会に先立ち各御来賓からのご挨拶では農水省の高橋課長補佐からは所得補償制度をはじめとする国の農政の転換について、ビール酒造組合近藤審議役からはビール業界の最近のビール類売り上げダウンの厳しい状況と、ホップ生産者に対して“守りではなくもっと積極的”に残留農薬対応等で安心安全への取り組みを求めた、又契約メーカー各社からは業界の再編統合がらみの動きが進んでいる事、安心安全と云える品質の確保に取組んで貰いたい事、このような場で意見交換ができることは有意義である等のお話がありました。

意見交換に入り、最近の話題として野菜やその他の作目で契約栽培の取組強化で元気になっている事例が色々ある、ホップにも参考にできる点があるのではないかと提案があり、又 契約メーカー側からは国産ホップは価格が高いのだから、それを使うためには売れる製品に繋がる事が必要である、其の為に価格の高さを補う付加価値をつける必要がある、それに向かって自動努力をするべきである。経済行為であるからには売れる理由が買う理由が双方に無ければならない、本当に必要とされる産物を提供する必要がある、国産ホップが本当に安全なのかという視点もある。今のビール業界では何を使っても確実に売れるというものはない、今後協同プロジェクト等で取組む必要があるのではないかと。

組合（生産者）側からは、所得の安定という意味では生産者として良い作物である、しかし手作業が多く収穫時には重労働である、他の作目との比較ではどうなのか？作目

転換される耕作者もいるのが実情である。“付加価値を付ける”と云われてもどのように取組めばよいのか戸惑う、考えられるのは堆肥を使うぐらいであるが労力的に大変である。契約メーカーや消費者には農業を育てる視点や、国産農産物の存在意義をも認識してもらいたい。ホップは一年一作だけであり工業生産とは違いがあり安定生産が難しい、現状の社会、経済及び自然環境の長期間明るさが見えない中で、契約メーカーの要望に沿うべく一生懸命に取り組んでいる事は理解して頂きたい。又メーカーには著しい気象災害に対しては経営支援を考慮してほしい。更には、ホップ共済制度はなんとしても維持して貰いたいこと、ホップ産地への国の資金投入がほとんど無くなっているのが実情に即したご支援を頂きたい。

などの内容の話合いが行われました、現状認識だけに終わってしまい今後の方向性については時間切れとなってしまいました。次回は同じことを繰り返すことは避けて今回の話し合いを踏まえたものとして、国産の産地のあるべき姿について議論を深め相互理解を図ってゆきたいと考えております。

2010・1月

H21年産ホップ 加工現場から

平成21年産ホップの加工作業は21年11月30日から始まっています。本年は加工予定数量が200t余と各産地の減収を受けて前年の30%以上の100トン減となっています。

また、作業員の陣容は一名が交代したものの、ベテラン揃いでありチームワーク良く順調に作業をこなしております。

H21年産ホップは各産地減収に加えて、他産地に於けるドリフト（飛散）による残留農薬検出があり、加工作業の進捗にも大きな影響を与えております。改めてポジティブリスト対応の重要性と恐ろしさを再認識する必要があります。

近隣圃場農地の人達と平日頃から連携を取りながら、被害者加害者のどちらにもなる事のない様、この問題に対応して行く事の必要性が強調されています。

又、例年指摘されている狭雑物の混入については、大きな茎の他、風雪花に加え「べと病」等の被害花混入も多い傾向があります。各収穫センターでも作業員を張り付けるなど努力されていると思いますが結果に反映されていないのが実情です。

これら異物狭雑物については産地毎に分量や比率（%）が分析されており、今後とも産地の責任において一層の混入防止への努力が求められております。

飛散防止に農家相互の協力関係を！

キリン社 原料資材部長が異動 ビジネスエキスパート㈱調達部に改編

本年1月1日付でキリングループ各社に於ける組織改編と人事異動があり、原料調達部門がビジネスエキスパート㈱に移管となりました。

より効率的な原料及び資材の調達を目指し、厳しいビール業界や清涼飲料業界での生き残りを図って行くためののだと言う事であります。

其れに伴い酒見原料資材部長はキリンビール㈱社長付きとなり、キリンビジネスエキスパート㈱調達部長には内田直也氏が発令されました。ホップの栽培契約及び購入に関わっていただくこととなります。

新旧夫々の部長は2月2日来江され、キリン関係協議会組合長会議の席上でご挨拶をされる予定になっています。

岩手県特産農作物(ホップ部門)共進会

振興協議会会長賞に菊池正徳氏

県農産園芸課主催の岩手県特産農作物（ホップ部門）共進会は2月5日盛岡市大沢川原の労働福祉会館於いて開催されます。

当組合からは菊池正徳さんをはじめとして及川栄喜さん菅原幸宏さんの3名が受賞されることになっております。

7月の突風やその後の日照不足など悪条件の中で最後まで諦める事なく努力された成果であるとお祝い申し上げます。当日は生産者研修会も午後で開催され、第6次の優良産地作り指標の成果が報告されると共に、第7次の岩手県ホップ優良産地作り指標が策定、決議されることになっております。

また盛岡地方気象台に講師をお願いして、最近の異常気象についての講演を頂くことになって降ります。同時に懇親会も持たれ岩手県内各産地の生産者との交流を予定しています。

参加を希望される方は組合にご一報ください。

キリンビール出荷量首位

報道によれば2009年の国内におけるビールの販売実績では、僅かの差ながらキリン社がアサヒ社を抑えて首位となった模様である。

キリン社は国産ホップの60%以上を契約買い入れしているトップメーカーであり、当農協組合員がこぞって地域や周囲に消費拡大を図っていたもので大変うれしく思います。

今後とも我々は良質高品質のホップの提供によって、消費者に受け入れられ続けるビール商品作りに協力してゆきたいと思っております。（文責 齋藤）

新年おめでたいございます
本年も宜しくお願いします

明けましておめでとう御座います。

昨年はホップ耕作にとっては大変な災害年でありました、組合員の皆様方のご苦勞をお察し致します。

迎えました新年が災害の無い穏やかな一年である事と、是非とも景気が回復してくれる事を祈りたいと思います。長期予報では暖冬になると予想されましたが、年明けと共に大雪に見舞われ正月三日は雪かきに追われました。その後も雪と低温の毎日にお陰様でゆったりとお正月ができた気がします

この冬の間に営農計画や作業計画をしっかりと点検して春作業の始まりに備えておきたいものです。

